

この講座を担当するのは、板垣と藤森が受け持ちます。

Adobe Premiere Pro1.5 が当センターに導入されましたので、早速このソフトを使って簡単なビデオ編集を操作手順などから始めたいと思います。

Premiere Pro は、アマチュアビデオ愛好家の中では人気が高く、多くの方が使っておられるようです。また Adobe からの製品でプレミアムエレメンツなども扱いやすい製品のようにです。今回は Windows XP のパソコンを使ってはじめます。

## 対応環境

OS Windows XP

CPU Intel Pentium 800MHz

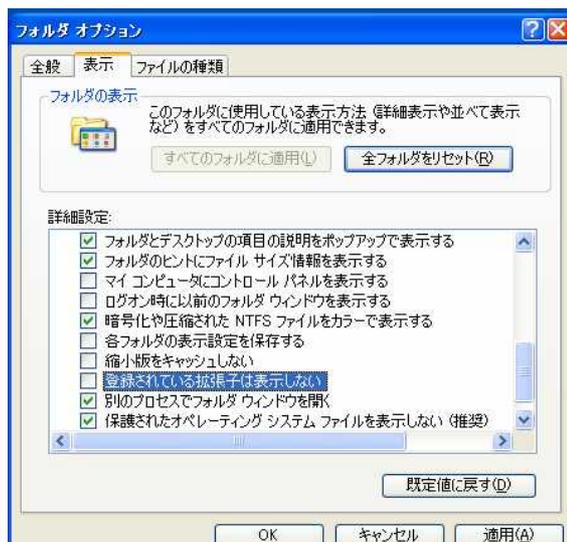
メモリー 256MB

HDD 800MB 以上の空き容量

このような環境以上のマシンが、より快適な編集作業が行えると考えられます。

## パソコンの設定

ファイルの拡張子を表示させる



拡張子というファイル名の後に「.（ピリオド）」以降の英字 3 文字でファイルの種類を区別しています。

このファイル名の拡張子を表示させるように設定します。

コントロールパネルから [フォルダオプション] を選択し、ダイアログボックスの [表示] タブをクリック、[詳細設定] 欄の [登録されている拡張子は表示しない] のチェックをはずします。

これで [OK] クリックで設定完了です。

### 〔1〕接続して新規プロジェクトの設定

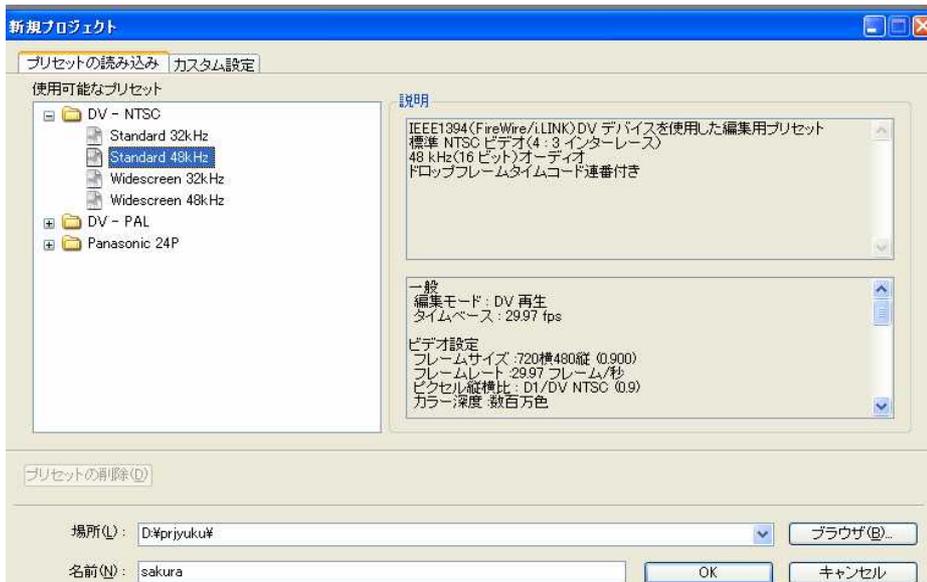


パソコンに DV カメラ、または DV デッキを IEEE1394 ケーブルで接続する。

今回の編集工程で必要と思われる範囲での説明を主にして行きます。

Adobe Premiere Pro を立ち上げると、最初に設定をするのが、プロジェクトの設定。

ここで [新規プロジェクトの設定] をクリックする。



「プリセットの読み込み」から DV NTSC の「Standard 32kHz」または、「48 kHz」を選ぶ。「カスタム設定」では特に変えるものはありません。「ブラウザ」をクリックしてプロジェクトの保存場所を指定する。[D ドライブ]にフォルダ [paljyuku]を書き込みファイル名も入れて[OK]ボタンをクリックする。

## 環境設定

[編集]から[環境設定]そして[デバイスコントロール]を選択する。



「DV デバイスコントロール」を確認して、[オプション]をクリック。[DV デバイスコントロール]の設定をする。

この後[スクラッチディスク]でキャプチャしたファイルなどの保存される場所を指定します。これらは、「キャプチャ」ウィンドウでも設定できます。

## 〔 2 〕 ビデオデータのキャプチャ

メニューの「ファイル」から[キャプチャ]を選択する。

[キャプチャ] ウィンドウが開いたら、[設定]タブをクリック、そして[編集]をクリックする。このなかで各種の設定などの確認を行います。

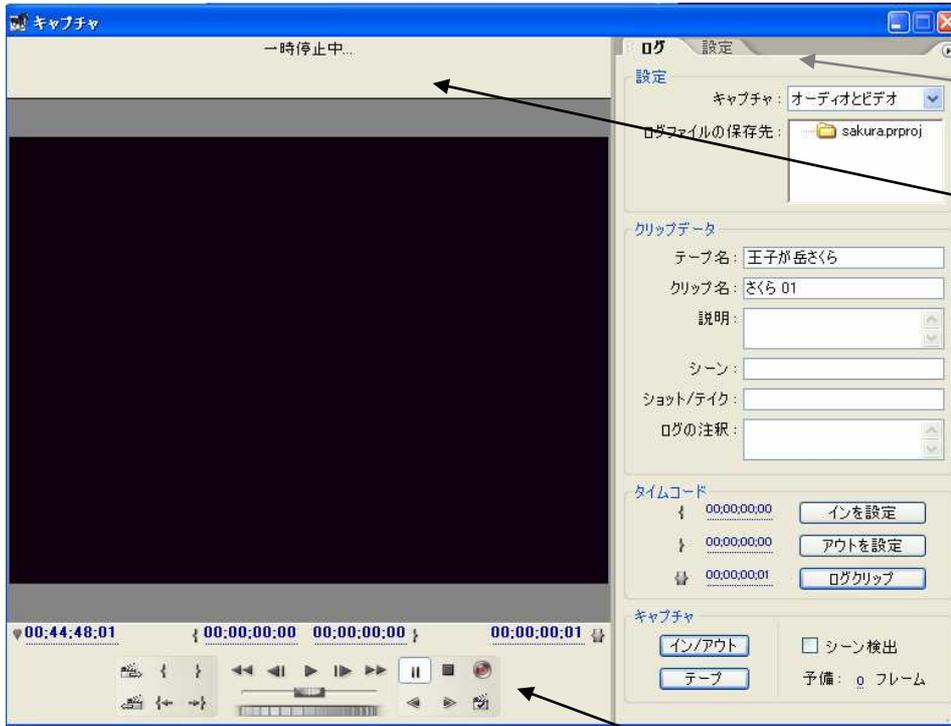
「再生」ボタンをクリックして、ビデオが表示されるのを確認します。

キャプチャの方法が幾つかありますが、今回は一般的に言われている「シームレス」という DV テープ 1 本全体をキャプチャして、1 つのビデオファイルとしてキャプチャする方法をつかいたいと思います。

テープを先頭まで巻き戻してから[テープ]をクリックします。これで[キャプチャ]が開始されます。

テープが最後までキャプチャ出来ると、自動的に停止します。

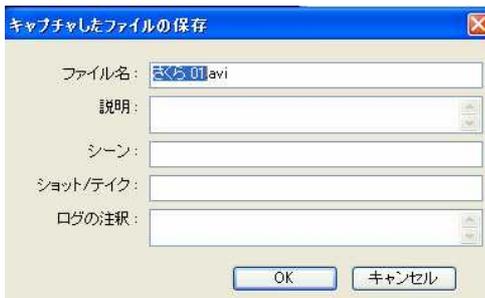
[録画]ボタンをクリックしてもキャプチャが入り、切り出来ます。



設定

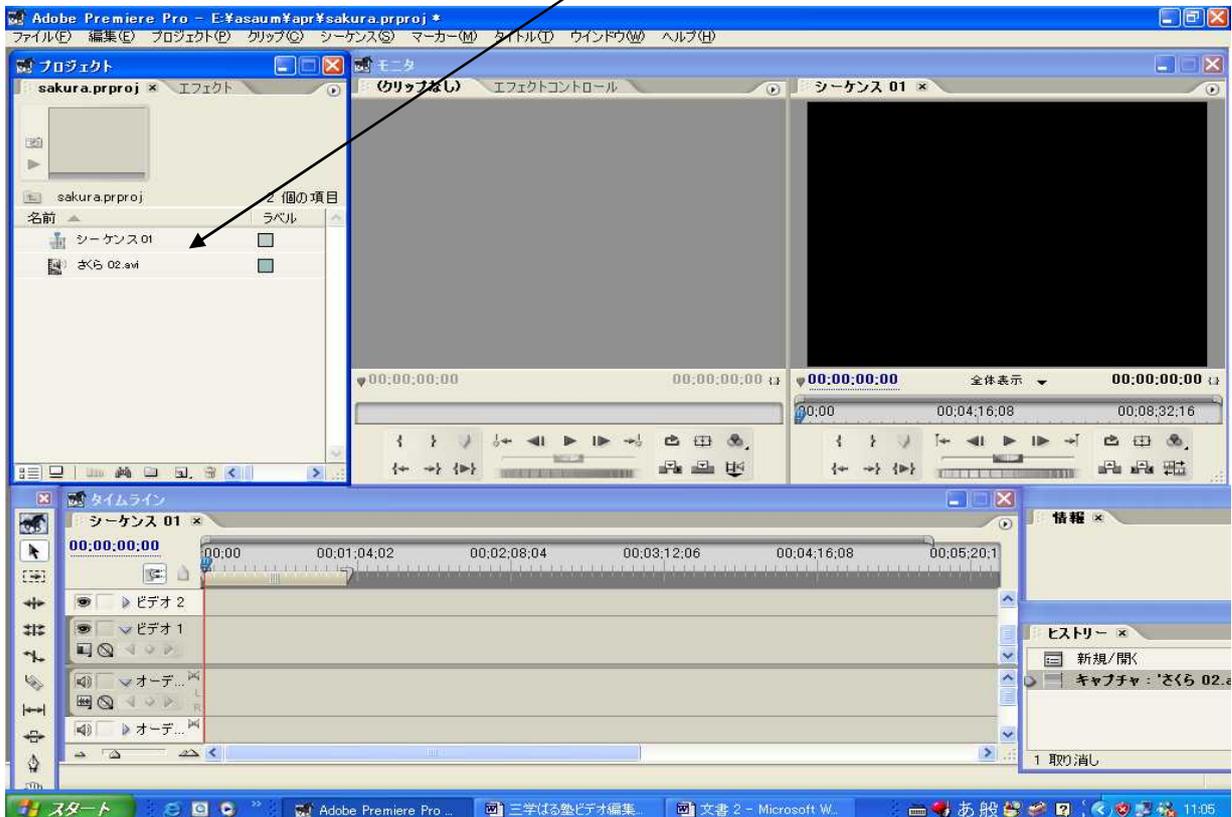
キャプチャが始まるとキャプチャデューレーションにカウントが記録されます。

録画



キャプチャが終わったらファイルに名前をつけて保存します。

そのファイルが[プロジェクト]に登録されます。





[プロジェクト] ウィンドウでクリップをタイムラインに配置する順序などを入替え、整理、などの作業が出来る。

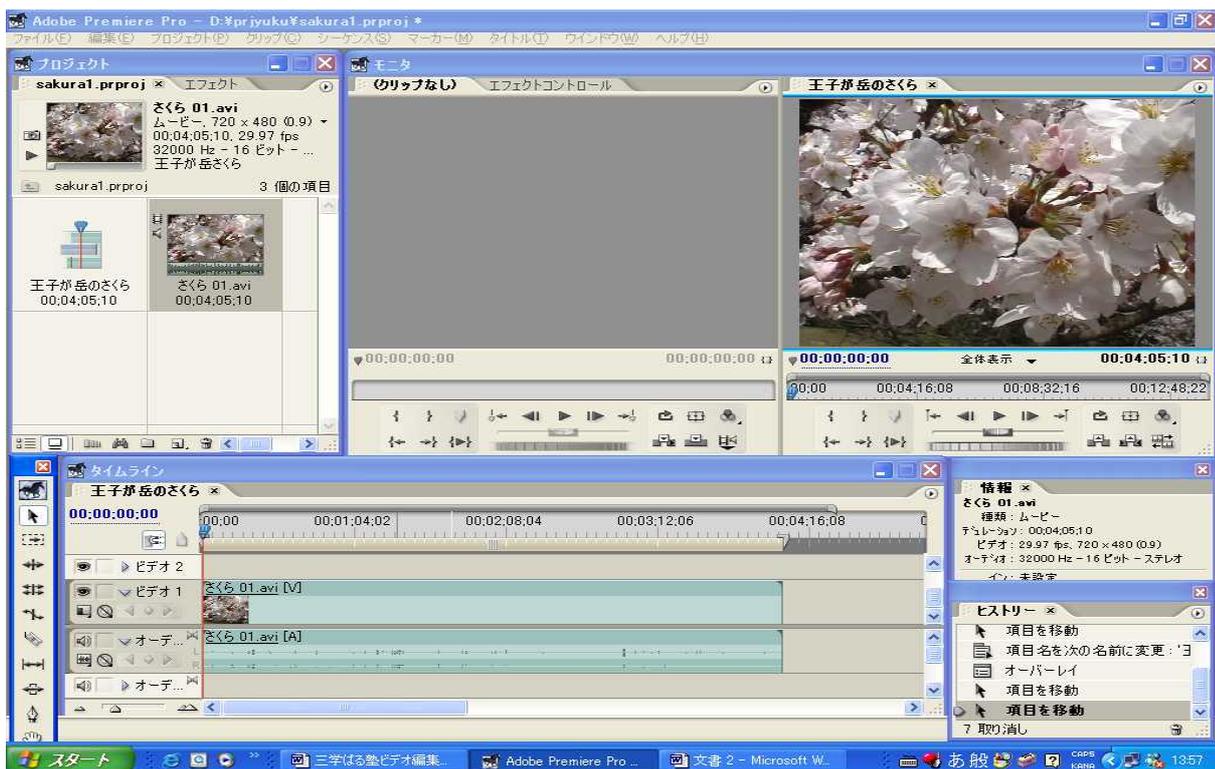
今回は、クリップが1つなので操作する必要は無い。

「シーケンス」はクリップを登録時、[シーケンス 01]などの名前で自動的に設定されます。

名前を変更することも出来る、この「シーケンス名」がタイムラインの左上に掲示される。

### 〔3〕タイムライン

タイムラインへは「プロジェクト」からクリップをドラック&ドロップで移動、貼り付けが出来ます。

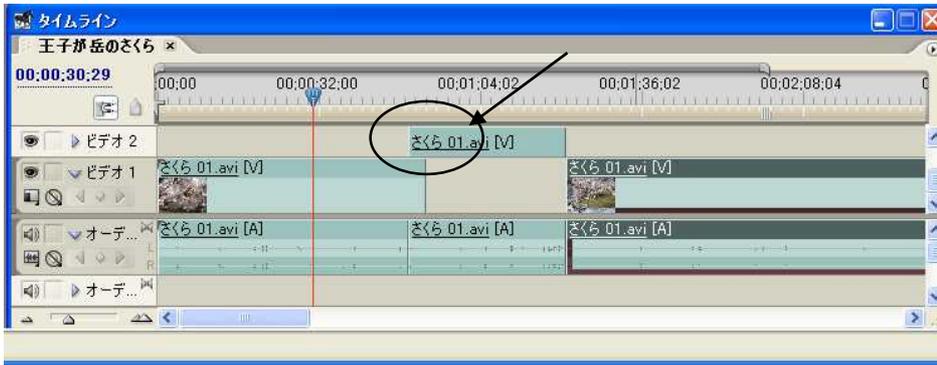


#### 選択ツールの説明 (よく使うツール)

[選択ツール] ドラッグなど普通の作業をするとき使う。

[トラック選択ツール] どれかクリップを選択すると、選択したクリップ以降にある同じトラックのクリップがすべて選択される。

[レーザーツール] クリックした位置でクリップを分割する。



タイムラインの「ビデオ1」トラックより上の段の「ビデオ2」にあるクリップが重なった部分は「ビデオ2」のトラックが表現される。

クリップの移動ではオーバーレイのときは下になったクリップはその部分が上書きされます。インサートでの移動は「ctrl」キーを押したまま移動すると上書きされずに挿入されます。また分割は、カーソルをその位置に矢印キーを使って正確に置き、[レーザーツール]を使ってカーソル位置をクリックして分割します。このラインの作業はモデルのクリップなどを使って編集を進めて行こう。

#### 〔4〕文字入力

[ファイル]から[新規][タイトル]を選択する。



Title Designer が起動したら [タイトルの種類] から [静止] を選ぶ。

[T] [文字ツール] を選択してテキストを挿入する位置に文字入力をする。

文字サイズの変更などは「オブジェクトスタイル」の[プロパティ]から[フォントサイズ]を「スクラブ」(マウスを置いてドラッグする)で変えられる。

文字の編集はここでさまざまに作ることが出来るので好みに応じて操作しよう。

#### 〔タイトル〕を保存する

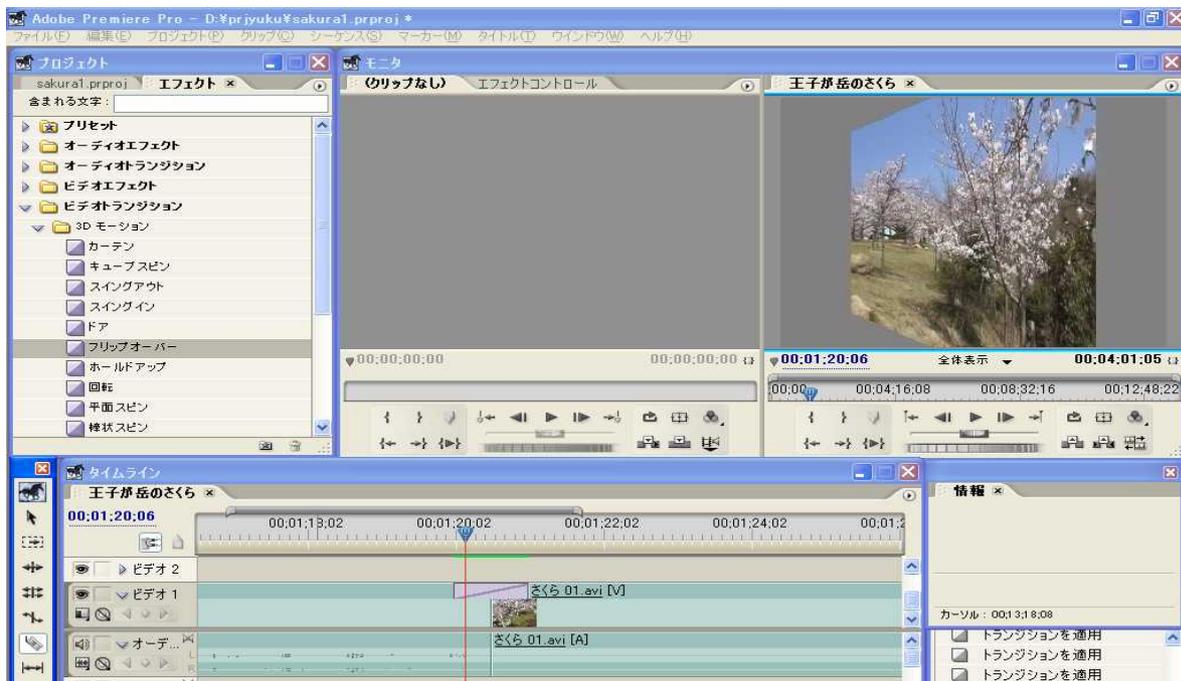
作成した文字やタイトルを [ファイル][保存] を選択して開いた「ダイアログボックス」に保存先のフォルダを確認して [ファイル名] の欄に [タイトル名] を入れて [保存] をクリック、 [プロジェクト] に登録される。このタイトルをタイムラインに配置します。

配置したタイトルのクリップは「ビデオ2」以上のトラック内のどこでも移動することが出来ます。

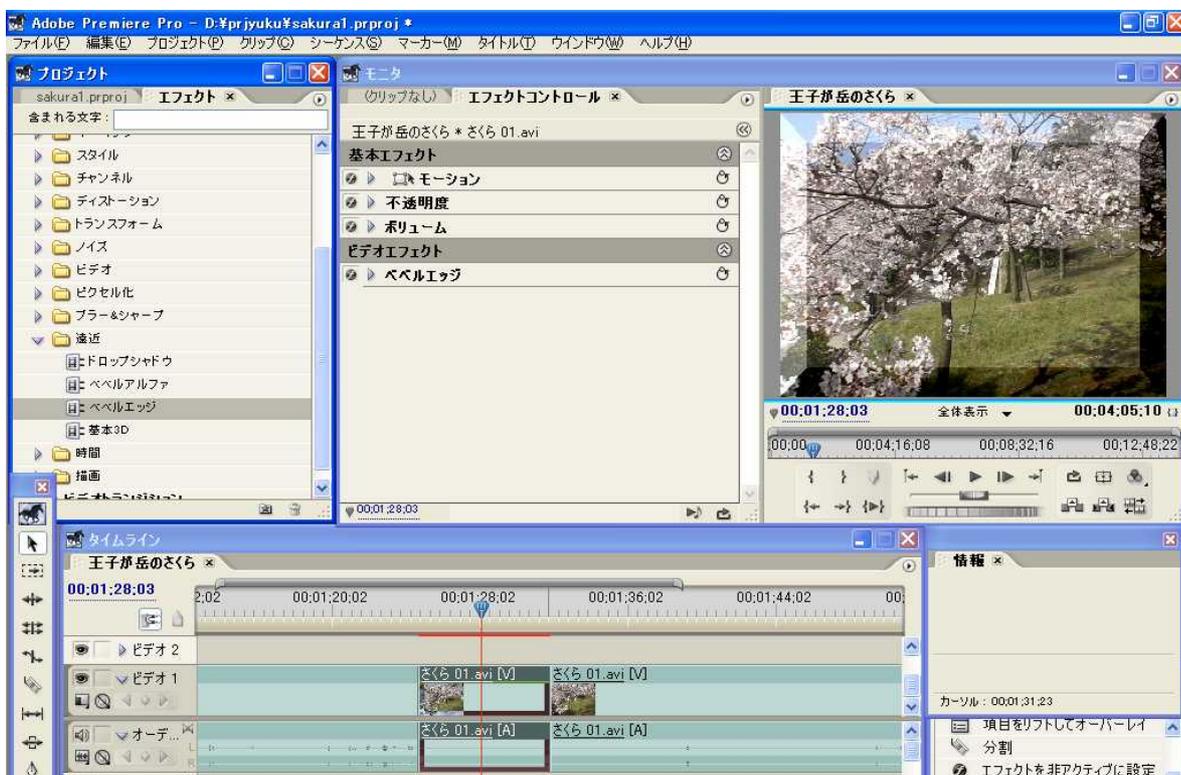
## 〔5〕映像に効果を加える

トランジションはクリップの切り替えなど、場面転換に設定する特殊効果です。

[プロジェクト]の[エフェクト]を選んでこの中から利用したいトランジションを選択して、設定したいクリップとクリップの接点にドラッグ&ドロップします。



エフェクト はビデオクリップやオーディオクリップなどに特殊効果を設定する為のものです。クリップの色を変えたり、角度の変更や複雑な効果も設定できます。



利用したいエフェクトをタイムラインのクリップにドラッグ&ドロップする。

更に細かく設定するには [エフェクトコントロール] ウィンドウによって行くと、より詳細に操作出来る。



## 〔 6 〕 BGMの設定

オーディオのデータファイルは、WAV形式やMP3，WMA形式などを読み込むことが出来る。プロジェクトに読み込んでからオーディオトラックにドラッグ&ドロップする。タイムラインでのレベル調整は、その編集したいオーディオクリップの右向きの「三角マーク」をクリックし、そのトラックの表示幅を広げて(操作が楽)作業をします。  
 [表示形式を設定]ボタンをクリックして[名前だけを表示]を選択します。  
 [キーフレームを表示]ボタンをクリック[クリップボリュームを表示]を選択します。  
 そこで音量を変えたいところのキーフレームをドラッグして調整をします。



## 〔 7 〕 出力

編集の完成した素材を用途に応じて出力します。  
 [ファイル]から[書き出し]を選択、[ムービー]ではAVI形式のファイルが作成されます。  
 [テープへの書き出し]ではDVカメラなどのDVテープに出力します。  
 [Adobe Media Encoder]は今回のDVDの作成に必要なMPEG-2を出力します。



MPEG-2を選んでから[OK]ファイル名をつけてから出力します。